

住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する展示会！

『Japan Home & Building Show 2019』

「音」と「高齢者の住まい」に特化した新特集／建築家が選ぶ「みらいのたね賞」

一般社団法人日本能率協会（JMA、会長：中村正己）は、2019年11月13日（水）～15日（金）の3日間、東京ビッグサイト 西展示棟（有明・東京国際展示場）で、住宅から商業施設、まちづくりにおける建築に関する専門展示会「Japan Home & Building Show 2019」を開催します。

「Japan Home & Building Show 2019」は、第41回を迎える「ジャパンホームショー」をはじめ「ふるさと建材・家具見本市」「店舗・商業空間デザイン展」「トイレ・バス・キッチン空間・設備フェア」「団地・マンションリノベーション総合展」「景観・ランドスケープ総合展」「イノベーションオフィス」の7つの展示会を継続開催します。

上記に加え、本年度は、『サウンド特集』及び『高齢者に優しい住宅』特集を初開催します。現在、関連の製品・技術・サービスの出展を募集しています。また、出展者の中から優れた建材・設備製品に贈られる「みらいのたね賞」も実施します。「Japan Home & Building Show 2019」にご出展いただき、WEBガイドにご入力いただくと選考対象となります。

◆開催概要 <http://www.jma.or.jp/homeshow/>

展示会名：「Japan Home & Building Show 2019」

- 第41回ジャパンホームショー
- 第14回ふるさと建材・家具見本市
- 第5回店舗・商業空間デザイン展
- 第4回トイレ・バス・キッチン空間・設備フェア
- 第3回団地・マンションリノベーション総合展
- 第3回景観・ランドスケープ総合展
- 第2回イノベーションオフィス



開催期間：2019年11月13日（水）～15日（金）10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）西展示棟1～3ホール

主催：一般社団法人日本能率協会

協賛：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会 / 一般社団法人リビングアメニティ協会
 一般社団法人住宅生産団体連合会 / 公益社団法人日本建築家協会

出展規模：1,200社／2,250ブース（予定・合同開催展含む）

来場者数：50,000名（予定・同時開催展含む）

同時開催：ビルメンヒューマンフェア&クリーン EXPO 2019 / トイレ産業展 2019

アジア・ファニッシング・フェア 2019 / The 38th JAPANTEX 2019

出展料金：主催会員…484,000円（税込）／1ブース（間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m）

会員外…528,000円（税込）／1ブース（間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m）

※1社につき別途WEB情報掲載料として、88,000円（税10%込）が必要

申込締切：2019年7月26日（金）

※2019年6月28日（金）までに申込みと早期申込特典として

44,000円（税込）／1ブースの割引が適用されます。

■新特集 音を防ぐ・音環境を良くする「サウンド特集」について

生活スタイル、音の受容者の感性が多様化し、様々な“音”にかこまれて生活していくなかで、建築における音を巡る様々なトラブルが後を絶ちません。多様化した音に配慮した防音性能を設計・施工から考え、快適な暮らしを実現するための住宅、音を通してより豊かな空間を実現する公共施設・オフィスのための“音”に特化した製品・設備・素材を特集します。

※詳細はこちらからご覧ください⇒<https://www.jma.or.jp/homeshow/sound/>

【出展対象・製品】

- ◆防音対策
床材、壁材、天井材、屋根材、窓材、排水配管、ブラインドなど
- ◆吸音対策
吸音材、吸音パネル、ガラス、パーティション、表面材など
- ◆制振対策
駐輪ラック、防振ゴム、手すり、屋上デッキなど
- ◆遮音対策
遮音材、換気口、開口部、建具など
- ◆良い音で伝える
スピーカー、BGM コンテンツ、館内放送設備など
- ◆清音機能
空調設備など



【来場ターゲット】

- 住宅、公共施設、商業施設、オフィスなど様々な建築において音環境・音空間に関心の高い建築関係者
- ・新築／リフォームを手掛ける工務店・ハウスメーカー、建築設計事務所、デザイン会社、デザイン事務所、施主 他
 - ・商業施設・オフィスデザインを手掛ける設計事務所、デザイン会社・デザイン事務所、施設オーナー、工務店 他

■新特集 「高齢者に優しい住宅特集」について

高齢化社会を迎え、高齢者の住まいが多様化し、住みなれた我が家で過ごしたいと願う人が増えています。今回は、高齢になっても安心・安全・快適そして健康に暮らし続ける住宅を実現するための製品・設備・素材を特集します。

※詳細はこちらからご覧ください⇒<https://www.jma.or.jp/homeshow/senior/>

【出展対象・製品】

- 高齢者が安心・安全・快適そして健康に暮らせる住宅・空間を実現する製品・設備・素材など
- ◆冷え防止対策
床材、壁材、空調設備、天井材、断熱材、屋根材、床暖房システム、
 - ◆転倒防止設備
手すり、床材、配線、照明、補強下地材、滑り止め、
 - ◆負担がかからない設備・インテリア
エレベーター、トイレ、バス、キッチン設備、家具、照明、サイン、ドア、窓
 - ◆身体に優しい素材
内装材、天然素材、塗料、接着剤、断熱関連商品、構造材・部材など
 - ◆防災対策
 - ◆防犯・セキュリティ設備、システム



【来場ターゲット】

- 新築／リフォームを手掛ける工務店・建築、設計事務所・デザイナー・ハウスメーカー・リノベーション・リフォーム業施設オーナー・施主・自治体他

【「サウンド特集」・「高齢者に優しい住宅」特集への出展に関して】

出展料金及び条件は、Japan Home & Building Show2019 に準ずる。

■建築家が選ぶ「みらいのたね賞」について

「みらいのたね賞」は、建築家が選ぶ、優れた建築を生み出すことに、貢献しうる優れた製品、未来へ布石となる製品に贈られる賞です。毎年ゲスト選考員を迎え、テーマに基づき製品を選考します。Japan Home & Building Show の出展者だけが選考対象となる限定の賞です。



みらいのたね賞
Seeds for the Future Award

今年度の「みらいのたね賞」の選考員は、昨年度に引き続き、選考メンバーとして松永安光氏（一般社団法人 HEAD 研究会 理事長）、山本想太郎氏（山本想太郎設計アトリエ 代表）の2名に加え、ゲスト選考員として、原田真宏氏（芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授）、永山祐子氏（永山祐子建築設計）の2名に決定いたしました。以上、計4名にて「みらいのたね賞」の選考を行います。

「風景」をつくる材料 【原田 真宏氏コメント】

材料が建築をつくり、建築は風景をつくる。
つまり、Japan Home & Building Show に集まる皆さんの材料は、私たちの日常の風景そのものを生み出す、根本的で重要な単位なのです。
ですから、材料単体としての性能に収斂するだけでなく、それを前提としながらも、周囲の環境と良き関係を取り結べるような材料が、私たちの風景をより豊かにするものとして目指されるべきなのではないでしょうか。また風景とは外観のみに終わらず、たとえば「生活景」という建築の内外にまたがる領域にまで浸透していく、境界のない考え方でもあります。
材料単体を眺めるだけではなく、広々と連続する「風景」という視点に立って、これに寄与する材料を顕彰したいと思います。



“美しさ”を生み出すもの 【永山 裕子氏コメント】

建築は構成される材料によってその有り様を変えます。
材料は環境に呼応し、私たちと環境との間を取り持ち、様々な関係性を作り出すとても大切な構成要素です。時には材料から建築を考えていくこともあります。今回は特にその関係性の中の“美しさ”を選考基準としたいと思います。
美しさには色々な規準がありますが、人間の5感に訴え、本能的な驚きと喜びを与えてくれるもの。それは建物のインターフェースとして見た目の美しさもありますが、私たちと環境との美しい関係性を築いてくれるかもしれません。
そんな未来へのワクワクを生む“美しさ”を作り出すものに出会えることを期待しています。



◆みらいのたね賞概要

対象製品：「Japan Home & Building Show 2019」出展製品

選考方法：一次選考…出展製品情報（WEBガイド）から選考メンバーが選考

二次選考…ゲスト審査員を加えた4名による選定会議にて、製品の選定、推薦をおこなう。
（10製品程度）

発表方法：製品展示…Japan Home & Building Show 会場内（東京ビッグサイト）の受賞企業の出展ブース内に展示、選考委員と共にブースをめぐるツアーを実施する。

シンポジウム…Japan Home & Building Show 内特設講演会場にて、本賞の表彰式ならびに選考委員によるシンポジウムを開催する。

【本件に関するお問い合わせ先】 Japan Home & Building Show 事務局（担当：松本、赤木）

一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内 TEL：03-3434-1988

〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22

※取材のお問合せは、広報室（TEL：03-3434-8620、担当：斎藤・川村）へお願いいたします。